

富山県福光町

神成遺跡 I
久戸Ⅱ遺跡 I

2004年3月

福光町教育委員会

序

福光町の東部に位置する北山田地区は、山田川と大井川にはさまれた水田地帯であります。近年の発掘調査等で、縄文時代から近世までの様々な遺跡が発見され、多くの歴史的遺産が埋蔵されていることが分かりました。

今回の調査は、一般県道福野城端線改良工事に伴う神成遺跡、久戸Ⅱ遺跡の発掘調査です。工事に伴って遺跡が削平される部分について本調査を実施することになりました。

今年度の調査の結果、平安時代の掘立柱建物、土坑などが見つかり、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁などの遺物が出土しました。本書は、その調査の成果をまとめたものです。郷土の歴史の解明や学術研究等に活用していただければ幸いです。終わりに、この調査の実施にあたり、富山县埋蔵文化財センター、福光町シルバー人材センターをはじめ、地元住民の方々に多大な御協力を賜りましたことに、深く感謝を申し上げます。

平成16年3月

福光町教育委員会

教育長 石崎栄一

例　　言

1. 本書は、一般県道福野城端線道路改良工事に伴う富山県福光町神成遺跡及び久戸Ⅱ遺跡の発掘調査概要である。
2. 調査は、平成15年9月21日から同年12月15日までである。調査面積は神成遺跡600m²、久戸Ⅱ遺跡840m²である。調査は、富山県土木部の委託を受け、福光町教育委員会が実施した。
3. 調査事務局は福光町教育委員会生涯学習課におき、指導文化係長 石黒久尚、指導文化係主事 片田亜紀が調査事務を担当し、生涯学習課長 加藤信行が総括した。調査の担当及び本書の執筆は、生涯学習課指導文化係主事 片田亜紀、同係嘱託 西村倫子が行った。
4. 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々の協力・助言があった。記して謝意を表する。
井幡潔・太鳩勇・林敏三・山田政寛（敬称略・五十音順）
5. 本書で使用した方位は真北である。土層の観察には、小出正忠・竹原秀雄編著1967「新版標準上色帖」日本色研事業株式会社を用いた。
6. 調査参加者は次の通りである。
井口金治・井口義雄・木口良男・水口善嗣・溝口末吉・溝口忠雄・溝口日出夫・山田善之
井口麗子・川島芳江・水口貞子・水口浜子・山田澄乃（現地作業員）
西川和美（遺物整理作業）

目　　次

I 位置と環境	1	第6図 神成遺跡4地区平面図	9
第1図 位置と周辺の遺跡	1	第7図 久戸Ⅱ遺跡3地区平面図	11
II 調査に至る経緯と経過	2	第8図 神成遺跡4地区的遺構(1)	13
III 調査の概要	2	第9図 神成遺跡4地区的遺構(2)	14
1 調査の方法		第10図 神成遺跡4地区的遺構(3)	15
第2図 遺跡範囲と調査区位置図	3	第11図 神成遺跡4地区的遺構(4)	16
2 神成遺跡4地区的概要	5	第12図 久戸Ⅱ遺跡3地区的遺構	17
第3図 神成遺跡4地区の基本層序	5	第13図 神成遺跡4地区的遺物	18
第4図 神成遺跡4地区		第14図 久戸Ⅱ遺跡3地区的遺物	19
久戸Ⅱ遺跡3地区的調査区割	5	図版1 神成遺跡4地区・久戸Ⅱ遺跡3地区(1)	
3 久戸Ⅱ遺跡3地区的概要	7	図版2 神成遺跡4地区・久戸Ⅱ遺跡3地区(2)	
第5図 久戸Ⅱ遺跡3地区的基本層序	7	図版3 神成遺跡4地区的遺構	
IV まとめ	8	図版4 神成遺跡4地区・久戸Ⅱ遺跡3地区的遺構	
参考文献	8	図版5 神成遺跡4地区的遺物	
		図版6 久戸Ⅱ遺跡3地区的遺物	
		報告書抄録	

I 位置と環境

富山県福光町は、石川県金沢市との県境をなす富山県の西南部端に位置する。町の西側から南側にかけては、養老三年（719年）、秦澄大師によって開山されたと言われる靈峰医王山をはじめとする山脈が連なる。町の南側に位置する上平村との境にある大門山に源を発する小矢部川が、その支流とともに平野部を形成する。市街地は主に小矢部川沿いに展開し、小矢部川とその支流である山田川にはさまれた段丘には小河川が縱横に走り、それらを利用した田地が広がる。

神成遺跡及び久戸Ⅱ遺跡は、山田川左岸の緩やかな傾斜を持つ洪積台地上の高宮田尻面に位置する[金田章裕 1993]。両遺跡は神成・久戸の地区境を遺跡境とし、現況は主に田地・畑地である。山田川を隔て、砺波平野を一望できる微高地に立地し、台地末端から河川域までの比高差は2m前後を測る。

周辺には、在房遺跡、久戸遺跡、宗守遺跡、梅原胡摩堂遺跡などの遺跡が密集しており、近年の調査で、古墳時代・奈良・平安時代の住居跡や中世の建物跡が数多く発見されている。また巖書土器や製塙土器なども出土しており、北山田地区一帯では古くから大規模な集落が営まれていたことがわかる。

文献資料では、福光町の一部が砺波川上郷に含まれていたとされている。平安時代には川上村と呼ばれる官倉が置かれていたことが知られる。その後11世紀には円宗寺領石黒庄が成立し、当地域はそのうちの山田郷の一部に比定される。



第1図 位置と周辺の遺跡 (S=1:50,000)

II 調査に至る経緯と経過

福光町北山田北部地区においては、東海北陸自動車道建設、県営ほ場整備事業（担い手育成型）の施工に伴い、遺物分布調査、試掘調査を行った。その結果、地区の大部分に縄文時代から中近世に続く集落等が遺存する埋蔵文化財包蔵地と確認されたため、工事の施工によりやむを得ず遺跡が破壊される、または永久に調査する機会を失ってしまう箇所については、県埋蔵文化財センター、財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所、町教育委員会がそれぞれ本調査を実施してきた。

一般県道福野城端線（以降「県道福野城端線」）は北山田地区を南北に走る道路である。この県道については改良計画があげられており、埋蔵文化財包蔵地内にあたる神成・久戸地内でも工事が進められることがなったため、平成15年度に本調査を実施することとなった。

今回本調査を実施したのは、県道福野城端線が新しく敷設される部分においてである。調査区は久戸Ⅱ遺跡の南端、神成遺跡の北西端に位置し、西には久戸遺跡・梅原湖摩堂遺跡が隣接する。南北幅は神成遺跡4地区が約70m、久戸Ⅱ遺跡3地区が約58m、合わせて128m、東西幅は神成遺跡4地区が約4～11m、久戸Ⅱ遺跡3地区が約11mである。面積は神成遺跡4地区が600m²、久戸Ⅱ遺跡3地区が840m²、合わせて1440m²である。

III 調査の概要

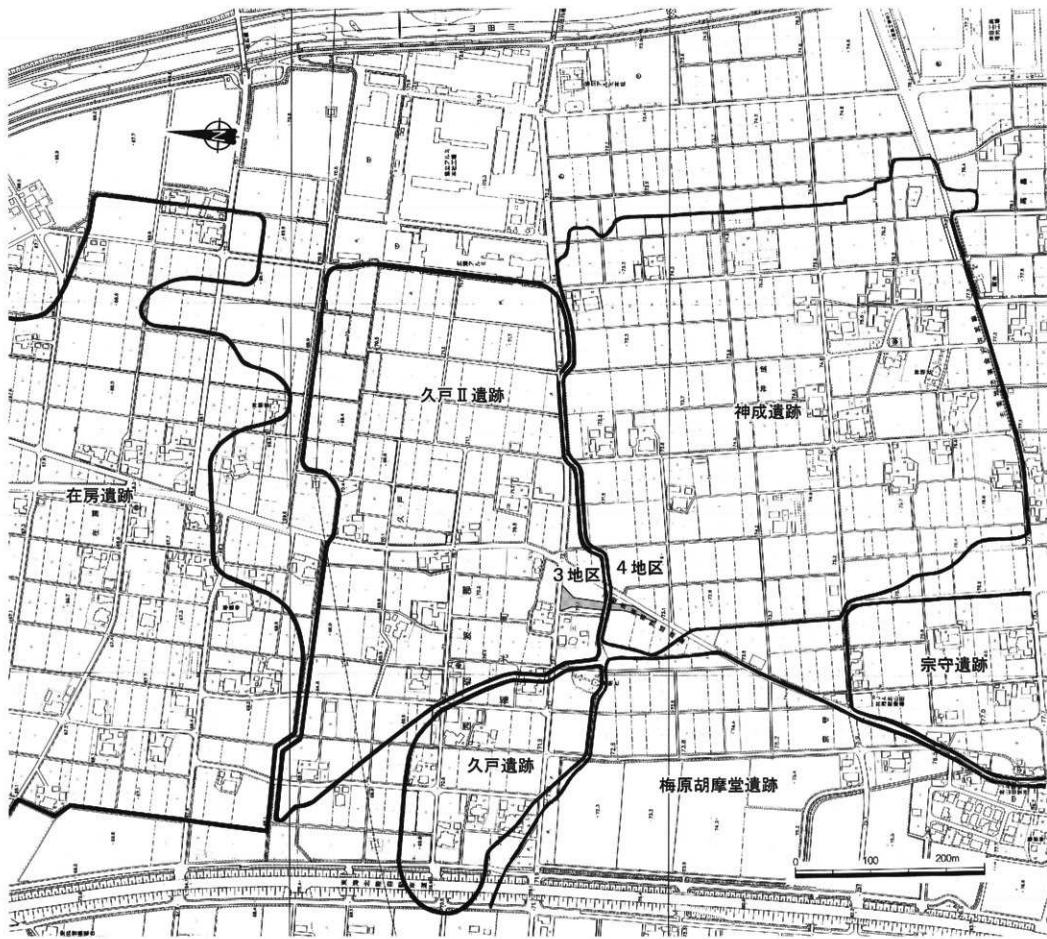
1. 調査の方法

調査区域の設定後、試掘調査の結果にもとづき、調査員の立ち会いのもとで表土除去を行った。表土除去には重機を使用し、耕作土および前回ほ場整備時の盛土の層まで掘削した。耕作土は、盛土と分けて調査区の外に搬出した。

表土除去後に、調査区に合わせたおおよその東西方向、南北方向に基準杭を設置して調査区割りを行った。区割りは、南から北にX軸、西から東にY軸とし、2mを一区画としてアラビア数字で表記した。その後調査区に合わせてサブレンチを設定し、地山面まで掘り下げる層位を観察した。一部にセクションベルトを残して層位を確認しながら、人力による包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を行った。遺構の掘削は、埋土の堆積状況を観察するために半載するか、セクションベルトを2本ないし3本残して掘削し、十層の記録作業が終わりしだい完掘した。排土は、人力により調査区外へ搬出した。

遺構は検出後、1：100で概略図を作成して、遺構毎に通し番号をつけた。遺構の検出状況や上層、遺物の出土状況は、調査員と調査補助員が手実測により1:20で図化した。各遺構の検出状況、断面、完掘状況などの記録写真、調査区のブロック写真、全体写真は調査員が撮影した。すべての遺構完掘終了後、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を図化用に行い、あわせて俯瞰・斜め写真等を撮影した。

出土遺物は、現地作業と並行して洗浄・バインダー処理・注記・仕分けの整理作業を行った。接合、復元は現場作業中止時や、現場終了後に行った。遺物実測やトレイス等は基準を統一し、調査員と整理員で図版を作成した。写真や図面は年度・遺跡・地区毎にファイルにまとめ、出土遺物は報告書の写真図版のとおりに整理箱に収めた。またそれ以外の遺物は地区の遺構毎、グリット毎にならべて整理箱に収めた。



第2図 遺跡範囲と調査区位置図 (S=1:5,000)

2. 神成遺跡4地区の概要

(1) 地形と層序（第3図）

神成遺跡4地区は、神成遺跡の北西端に位置する。

現況の一般県道福野城端線の西隣である。海拔は71.1～71.3mを測り、地形は南から北へ緩やかに傾斜している。

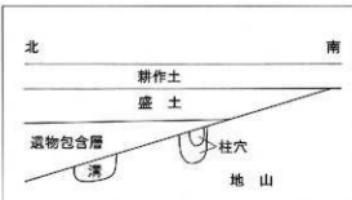
地表から地山面までは調査区北側で60～70cm、

南側で約20cmであり、地山（黄褐色粘質土）、遺物包含層（黒褐色粘質土）、盛土（茶褐色粘質土）、現代の耕作土の順に堆積している。包含層が堆積しているのはX10列以北であり、X10列以南は地山面が礫層まで削平されているため、遺構の遺存状況は悪い。

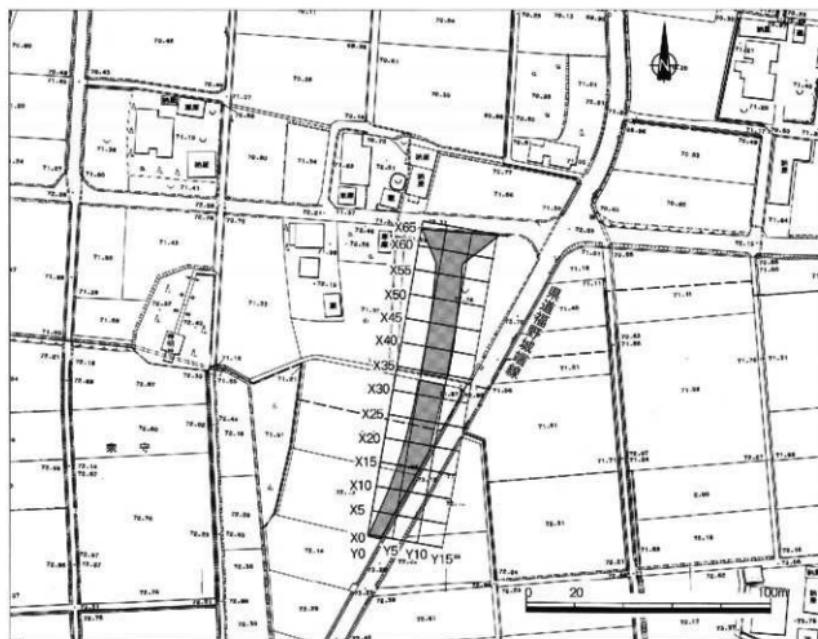
(2) 遺構の概要

S B01（第8図、図版3）

調査区北端に位置する。東西方向は2間、北側が調査区外に延びるため、南北方向は2間以上の側柱建物であると考えられる。棟方向は真北に対し10°西へ振れる。建物の柱穴は、直径50～80cmの円形を呈し、深さは約30cmである。東西軸がS B02と平行しており、柱間は約1.5mと共通性がある。



第3図 神成遺跡4地区の基本層序



第4図 神成遺跡4地区・久戸II遺跡3地区的調査区割 (S=1:2,000)

S B02 (第9図、図版3)

調査区北側の東寄りに位置する。南北方向は3間、東側が調査区外に延びるため、東西方向は2間以上の側柱建物であると考えられる。S B01の南約5.5mに位置し、棟方向は真北に対し10°西へ振れる。建物の柱穴は、直径40～50cmの円形を呈し、深さは約25cmである。P 1はS B03-P 4と重複しており、その切り合いからS B02の廃絶後にS B03が建てられたと考えられる。

S B03 (第9図、図版3)

調査区北側の東寄りに位置する。南北方向は2間、東側が調査区外に延びるため、東西方向は2間以上の総柱建物であると考えられる。棟方向は真北に対し15°東へ振れる。建物の柱穴は、直径20～25cm、深さ約30cmの円形を呈する。P 4はS B02-P 1と重複し、その土層堆積状況からS B02の廃絶後に建てられたと考えられる。P 2から中世土師器が出土しており、建物の時期は中世であると考えられる。

S B04 (第10図、図版4)

調査区中央の西寄りに位置する。2間×2間の総柱建物であるが、西側が調査区外へ延びる可能性がある。棟方向は真北に対し17°東へ振れる。建物の柱穴は、直径約20cm、深さ約20cmの円形を呈する。柱間は約2.0mである。埋土は黒色粘質土を中心とする。柱穴の間隔や、柱穴の形状、土層堆積状況からもS B03と同時期の建物であると考えられる。

S D01 (第11図)

調査区の北西端X24～31、Y3～5付近を南から北へ流れる。X24Y5付近で約90°屈曲する。幅約60cm、深さ5～15cmである。埋土は黒色粘質土であり、土師器、須恵器、瓦器が出土している。出土遺物が古代のものであり、溝もこの時代に流れていたものと思われる。

S D04・S D06・S D09 (第11図、図版3)

調査区中央X16～20、Y7付近に位置する。確認できた全長はS D04が8m、S D06が1.7m、S D09が1.3mであり、いずれも平行している。幅約25cm、深さは検出面から15cm程度で、溝であれば南から北に流れていたものと思われるが、歴史的である可能性もある。

S K01・S K02 (第11図、図版4)

調査区中央やや南寄りX11～12、Y2～4付近に位置する。S K01の東側とS K02の西側を略して切られており、同じ土坑である可能性もある。S K01は南北方向2.3m、東西方向1.3m、深さ約15cmの不整形を呈し、掘形もはっきりしない。S K02は南北方向3.5m、東西方向0.5～2.0m、深さ20～50cmの不整形を呈す。埋土は粗砂まじりの黒色粘質土を中心とする。S K01で縄文土器の小破片が1点出土しているだけで、土坑の詳しい時代・性格は不明である。

(3) 遺物の概要

出土遺物には、縄文土器、上師器、須恵器、中世土師器、珠洲がある。

S B03 (第13図、図版5)

1は中世土師器・皿である。非ロクロ成形であり、口縁部付近にナデが、底部に指圧痕がみられる。

S D01 (第13図、図版5)

2は土師器・椀の底部破片である。糸切り痕がみられる。3は須恵器・甕である。口縁部が大きく外反する。内外面ロクロナデが施され、色調は青灰色である。

包含層（第13図、図版5）

4は須恵器・長頸壺の脚部である。色調は灰色である。外面と内面の一部に自然釉がかかる。5は珠洲・四耳壺である。耳は失われている。内面にロクロナデ、外面にタタキ目がみられる。外面に自然釉がかかる。胎土は粗く焼成ぶくれがみられる。6、7は土師器・碗である。7は器暁が薄く外面にロクロナデを施す。8～11は中世土師器・皿である。8は底部からほぼ直線的に開く形で、内外面にナデを施す。9～11は非ロクロ成形と思われる。12は珠洲・すり鉢である。器体はほぼ一定の厚みを持ちながら直線的に開き、口縁部は外方を向く。

3. 久戸Ⅱ遺跡3地区の概要

(1) 地形と基本層序（第5図）

久戸Ⅱ遺跡3地区は、久戸Ⅱ遺跡の南西端に位置し、海拔は71.3～71.9mを測る。地形は、北から調査区南側の河跡に向かって傾斜している。

地表から地山面までの深さは調査区南側で約50～80cm、北側で20～30cmであり、地山（黄褐色粘質土）、遺物包含層（黒褐色粘質土）、盛土（茶褐色粘質土）、現代の耕作土の順に堆積している。

(2) 遺構の概要

上坑3、柱穴を検出した。

SK01（第12図、図版4）

調査区の北東端に位置し、南北方向約1.5m、東西方向約1.0m、深さ約20cmの不整形の土坑である。埋土は黒色粘質土を中心で上層は炭が多量に混じる。遺物は土師器が出土している。周辺の遺構や包含層からは珠洲の壺と思われる体部破片が多く出土している。

P17（第12図）

調査区中央X47、Y6付近に位置する。直径90cm、深さ50cmのほぼ円形を呈する。埋土は黒色粘質土に礫が混じる。遺物は土師器の破片が出土している。

その他の柱穴（第12図）

柱穴は調査区の中央X4～8、Y44～55付近と、北側X61～64、Y10～13付近に集中している。掘立柱建物と考えられるような柱穴列は確認できなかった。柱穴の大きさはばらつきがあるが、埋土は黒色粘質土を中心とする柱穴が多い。

(3) 遺物の概要

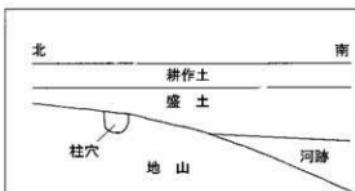
出土遺物には、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、近世陶磁器がある。

SK01（第14図、図版6）

13は土師器・皿の底部破片である。内面に煤が付着する。底部に糸切り痕がみられる。

SK02（第14図、図版6）

14は中世土師器・皿である。口径7.5cmの小皿で底面に厚みを持たせたものである。内外面にロクロナデがみられる。15は珠洲・壺の口縁部である。IV期に比定される。口縁部は、くの字状に屈折し口縁端部は円形を呈する。外面に平行タタキ目、内面に当て具痕がみられる。



第5図 久戸Ⅱ遺跡3地区の基本層序

S K03 (第14図、図版6)

16は土師器・椀である。磨耗が激しいが外面にロクロナデの痕がみられる。

P77・P110・P127・P132 (第14図、図版6)

17 (P77) は須恵器・蓋である。口縁部が折れる形態である。18 (P132) は土師器・皿である。体部は丸みを帯びて立ち上がり、内外面にロクロナデが施される。19 (P110) は土師器・鍋である。内面の一郎と外面に横方向のカキ目がみられる。20 (P127) は珠洲・壺である。外面は斜めのタタキ目、内面は当て具痕が見られる。

包含層 (第14図、図版6)

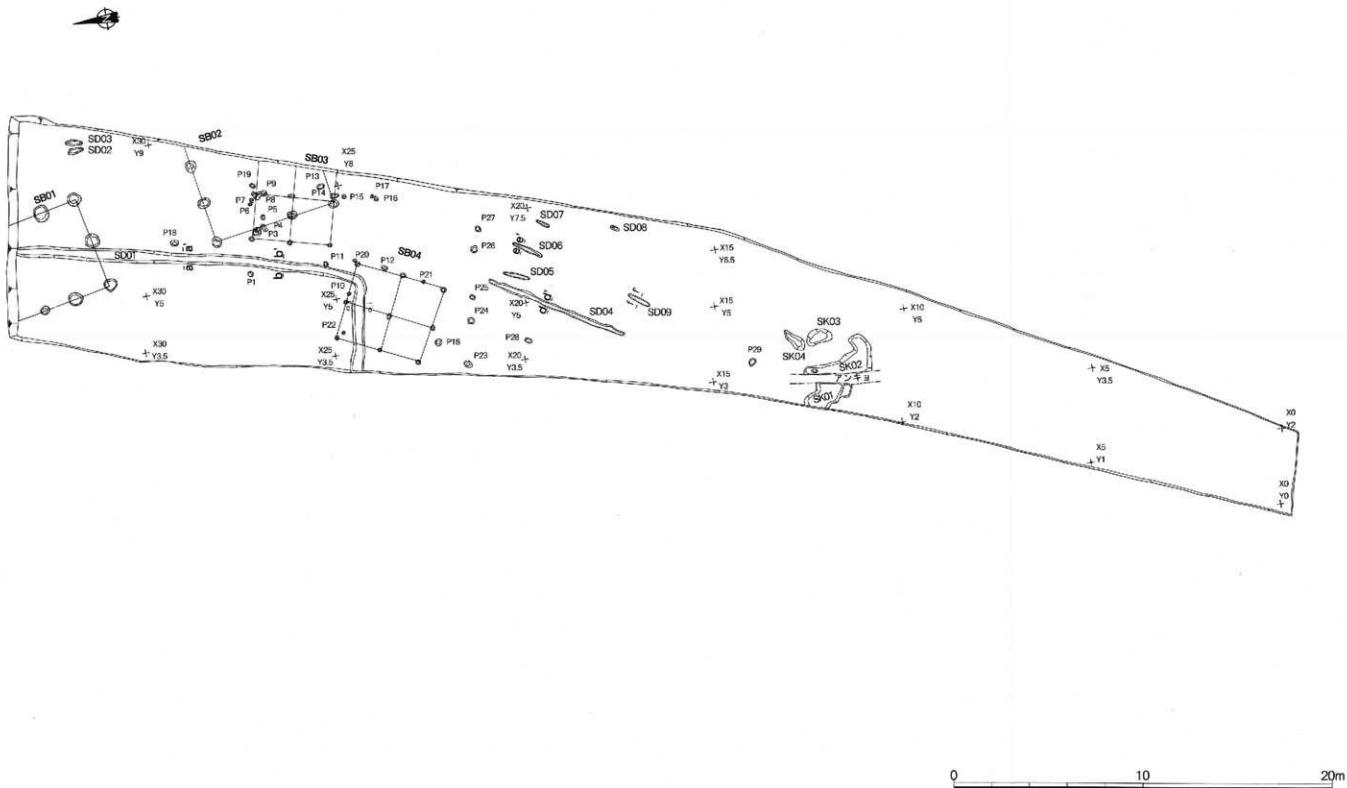
21～24は中世土師器・皿である。21は底部破片で糸切り痕が見られる。22は底部からほぼ直線的に開く。磨耗しているが底部は糸切りと思われる。24は内外面にナデが施される。25は珠洲・壺の口縁部である。15と同様IV期に比定される。口縁部は、くの字状に屈折し、口縁端部はやや方形を呈する。外面に平行タタキ目がみられる。26は近世陶磁器・皿である。内面に灰釉が薄くかかる。

IV まとめ

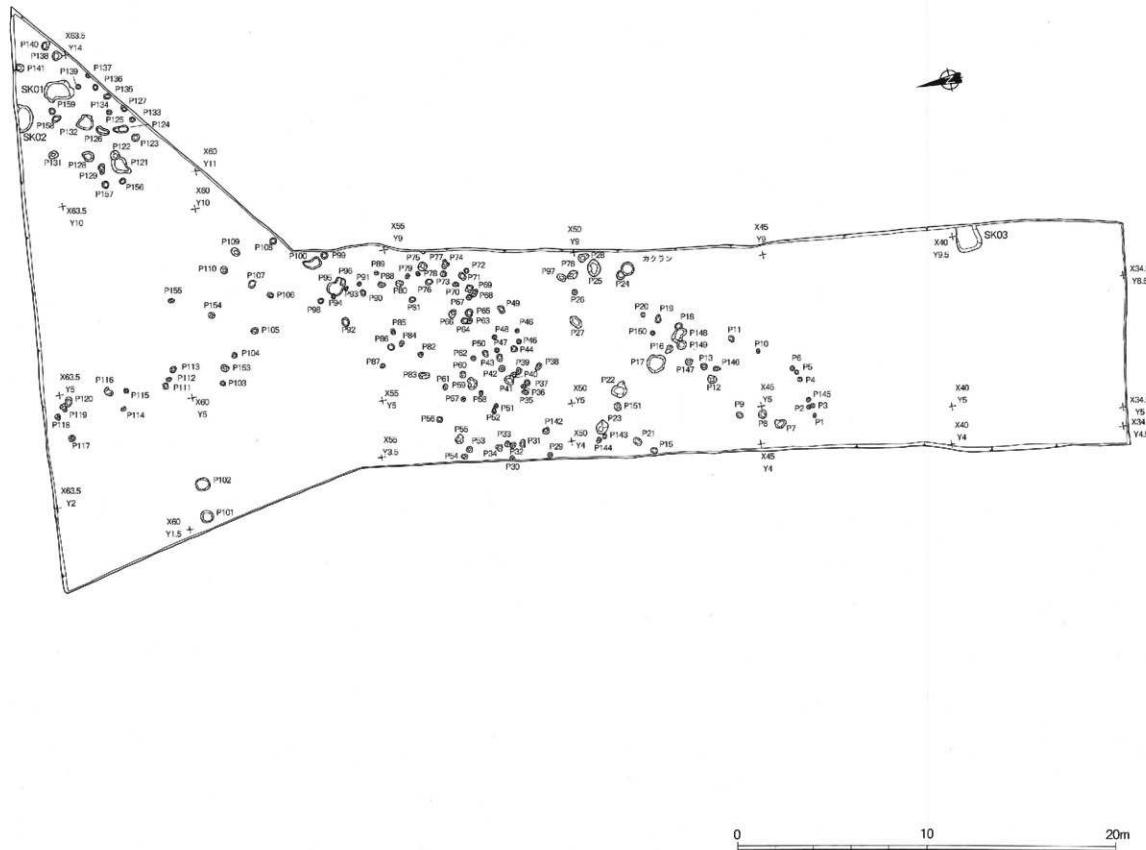
1. 神成遺跡4地区の南側は、削平を受けており遺跡の遺存状態は悪い。北側では、古代末の掘立柱建物跡2棟や溝、柱穴、中世初めの掘立柱建物跡2棟、土坑、柱穴などを検出した。神成遺跡は绳文時代・古墳時代・古代・中世・近世の集落遺跡であるが、今回の調査区では古代後半と中世の遺構を検出した。
2. 久戸Ⅱ遺跡3地区は、調査区の南側に包含層が厚く堆積しており、地表から地山までの深さは1.0mである。かなりの保湿性があり、地山はグライ化している。古代の土師器が出土していることから、その頃流れしており中世には埋没していた河跡であると考えられる。調査区中央から北側にかけては柱穴を数多く検出したが、規則性は認められず、建物跡らしきものは確認できなかった。

参考文献

- 大島町教育委員会2000『八尾C遺跡』
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター『藤江C遺跡IV・V (縄文時代編)』
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター『藤江C遺跡IV・V (弥生・古墳時代編)』
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター『藤江C遺跡IV・V (古代・中世編)』
小矢部市教育委員会2003『桜町遺跡発掘調査報告書 弥生・古墳・古代・中世編I』
金田草裕1993「医王山麓の平野における中世の景観」『医王は語る』
(財)富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所1996「梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告 (遺構編)」
(財)富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所1996「梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告 (遺物編)」
福光町教育委員会1999『梅原胡麻堂遺跡III 梅原出村遺跡群III』
福光町教育委員会2001『在房遺跡I』
福光町教育委員会2002『在房遺跡II』
福光町教育委員会2003『在房遺跡III・久戸Ⅱ遺跡I』
舟橋村教育委員会2000『浦川遺跡発掘調査報告(3)』
北陸古代土器研究会1993『北陸古代土器研究第3号』
北陸古代土器研究会1994『北陸古代土器研究第4号』
北陸古代土器研究会1995『北陸古代土器研究第5号』
北陸古代土器研究会1997『北陸古代土器研究第6号』
北陸古代土器研究会1997『北陸古代土器研究第7号』
古岡康徳1991『日本海城の土器・陶磁 [古代編]』六興出版

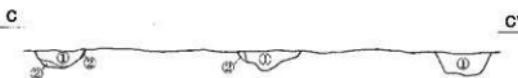
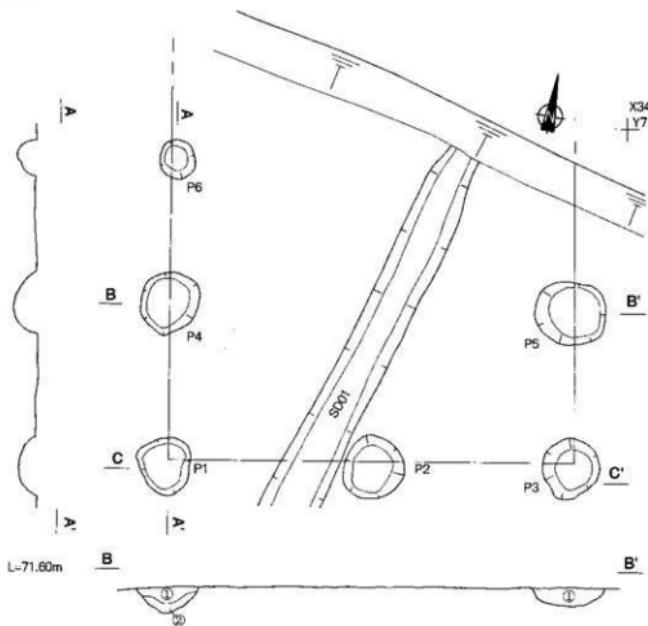


第6図 神成遺跡4地区平面図 (S=1:200)



第7図 久戸II遺跡3地区平面図 (S=1:200)

SB01



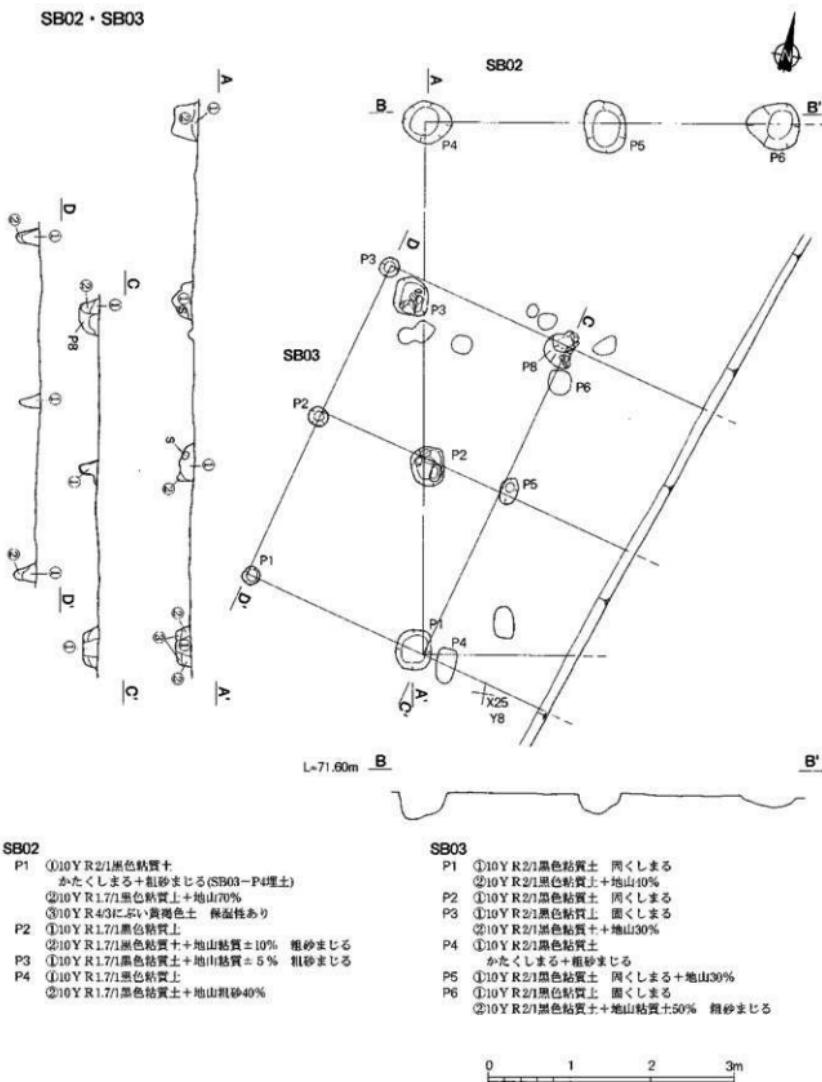
SB01

- P1 ①10Y R 1.7/1黒色粘質土+0.5 ~ 1cm大の礫まじる
②10Y R 1.7/1黒色粘質土+1 ~ 5cm大の礫まじる
- P2 ①10Y R 1.7/1黒色粘質土+2 ~ 5cm大の礫まじる
②10Y R 1.7/1黒色粘質土+地山30%
- P3 ①10Y R 1.7/1黒色粘質土+2 ~ 5cm大の礫まじる
- P4 ①10Y R 1.7/1黒色粘質土+1 ~ 5cm大の礫まじる
②10Y R 2/2黒褐色上粘質土+1 ~ 5cm大の礫まじる
- P5 ①10Y R 2/1黒色粘質土+1 ~ 10cm大の礫まじる



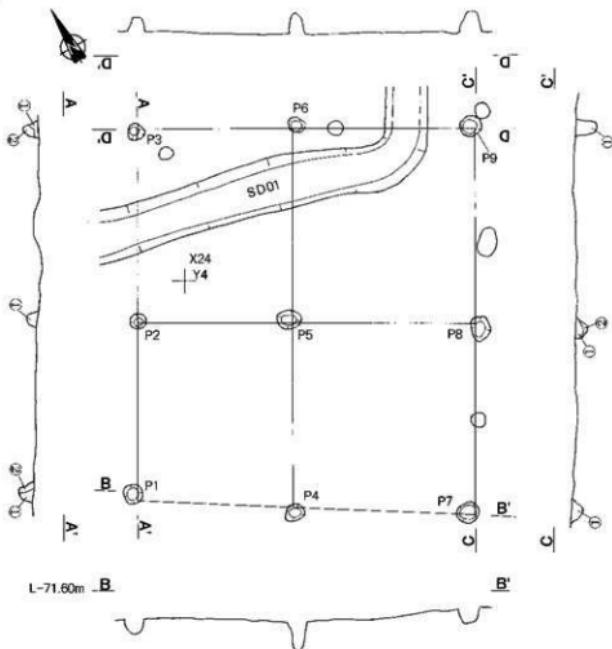
第8図 神成遺跡4地区の遺構(1) (S=1:60)

SB02・SB03



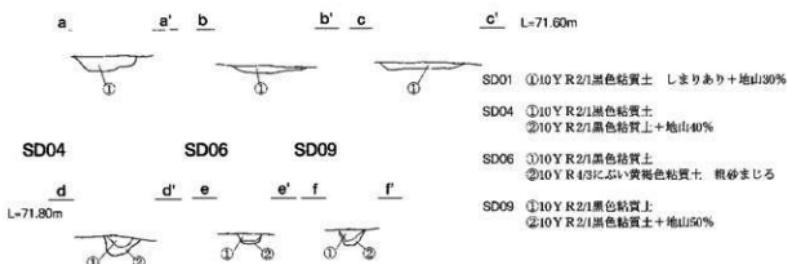
第9図 神成遺跡4地区の構造(2) (S=1:60)

SB04

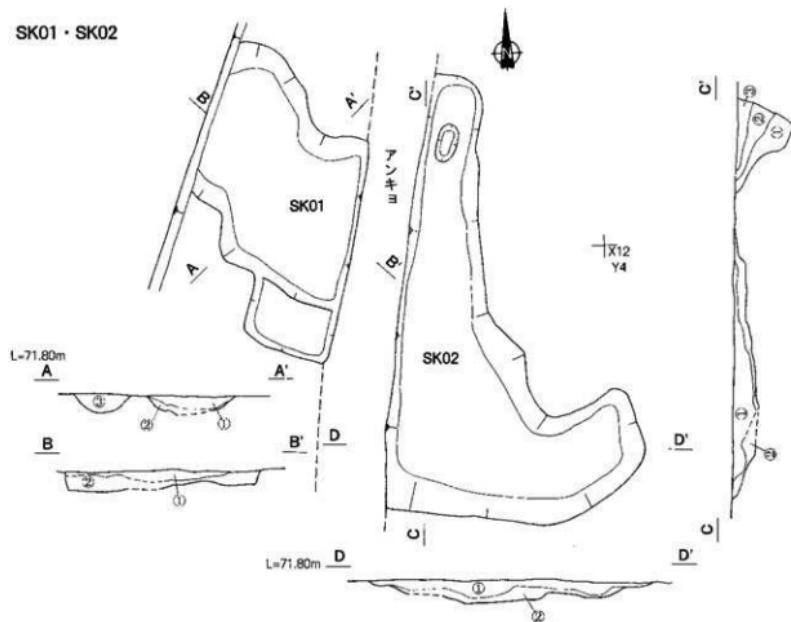


第10図 神成遺跡4地区の遺構(3) (S=1:60)

SD01

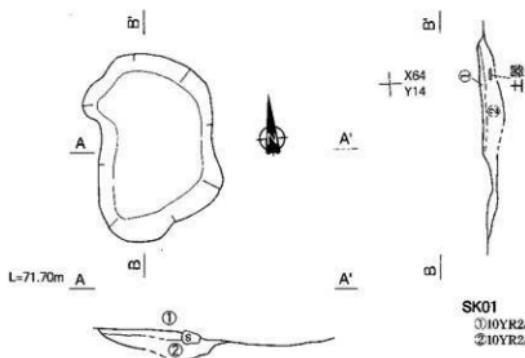


SK01・SK02



第11図 神成遺跡4地区の遺構(4) (S=1:40)

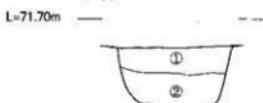
SK01



SK01

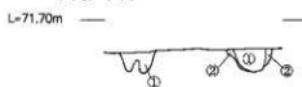
- ①10YR2/1黒色粘質土+炭多量にまじる
- ②10YR2/1黒色粘質土+1~2cm人の頭まじる

P17



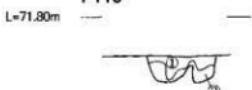
- P17 ①10YR1.7/1黒色粘質土+1~5cm大の礫まじる
②10YR2/1黒色粘質土+1~10cm大の礫まじる

P76・P77



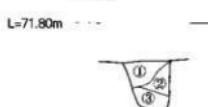
- P76 ①10YR1.7/1黒色粘質土+地山7%
- P77 ①10YR2/1黒色粘質土+地山ブロック
②10YR2/1黒色粘質土+地山70%

P116



- P116 ①10YR1.7/1黒色粘質土+地山10%
②10YR3/3暗褐色砂質土+2~3cm大の礫まじる

P153



- P153 ①10YR2/1黒色粘質土+粗砂まじる+0.5cm人の頭まじる
②10YR2/1黒色粘質土+地山20%
③10YR2/1黒色粘質土+粗砂まじる+1~2cm大の礫まじる



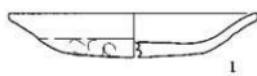
- P132 ①10YR2/1黒色粘質土+1~3cm大の礫まじる



第12図 久戸Ⅱ遺跡3地区の遺構 (S=1:40)

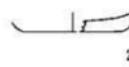
神成遺跡 4 地区

SB03

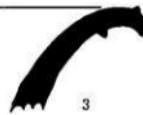
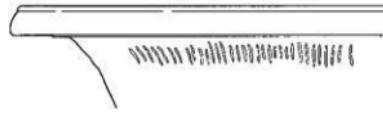


1

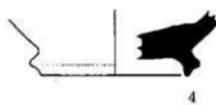
SD01



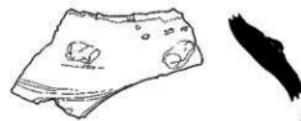
2



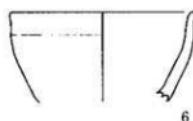
包含層 (4 ~ 12)



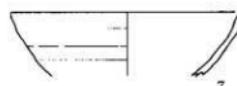
4



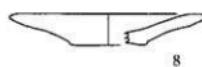
5



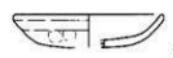
6



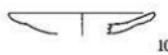
7



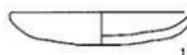
8



9



10



11



12



第13図 神成遺跡 4 地区の遺物 (S=1:3)

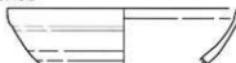
久戸 II 遺跡 3 地区

SK01



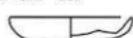
13

SK03



16

SK02 (14・15)



14



15

P77



17

P132



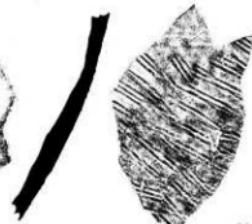
18

P110



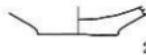
19

P127

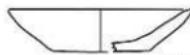


20

包含層 (21～26)



21



22



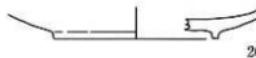
23



24



25



26

0

20cm

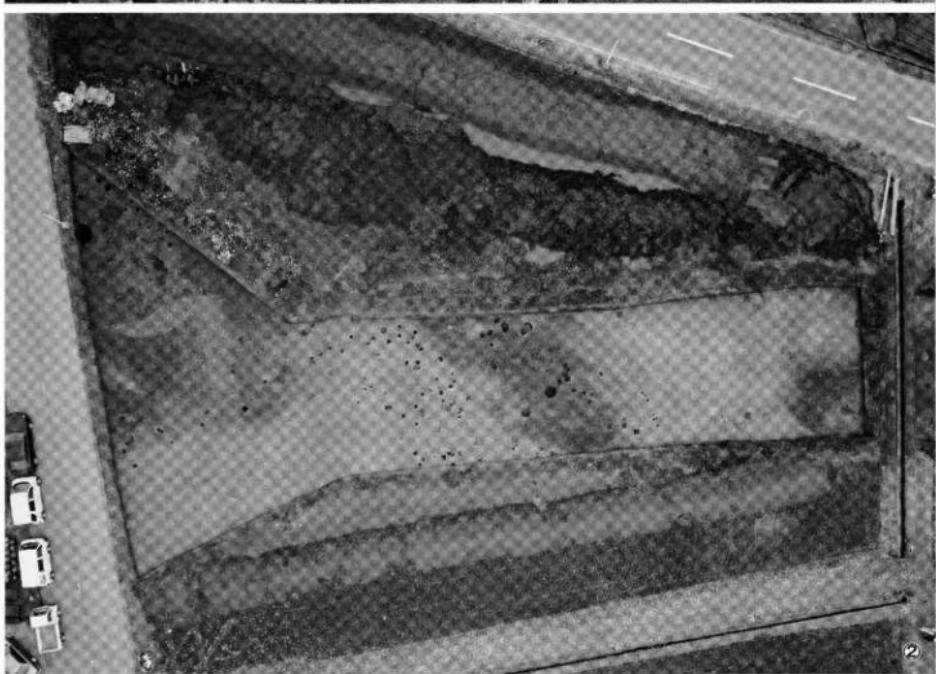
第14図 久戸 II 遺跡 3 地区の遺物 (S=1:3)



図版1 神成遺跡4地区・久戸II遺跡3地区(1)

①遠景(北から)

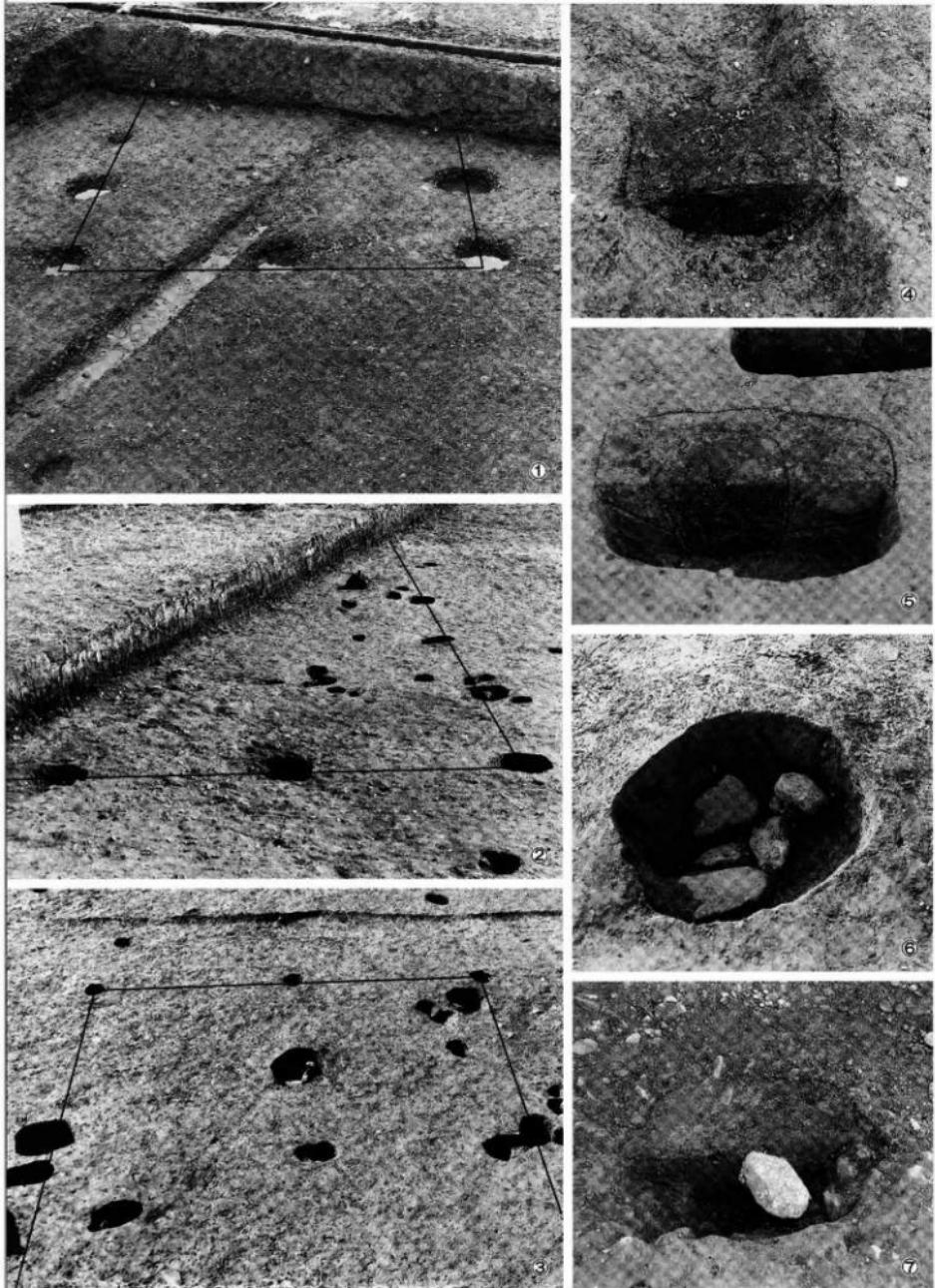
②調査区全景



図版2 神成遺跡4地区・久戸Ⅱ遺跡3地区(2)

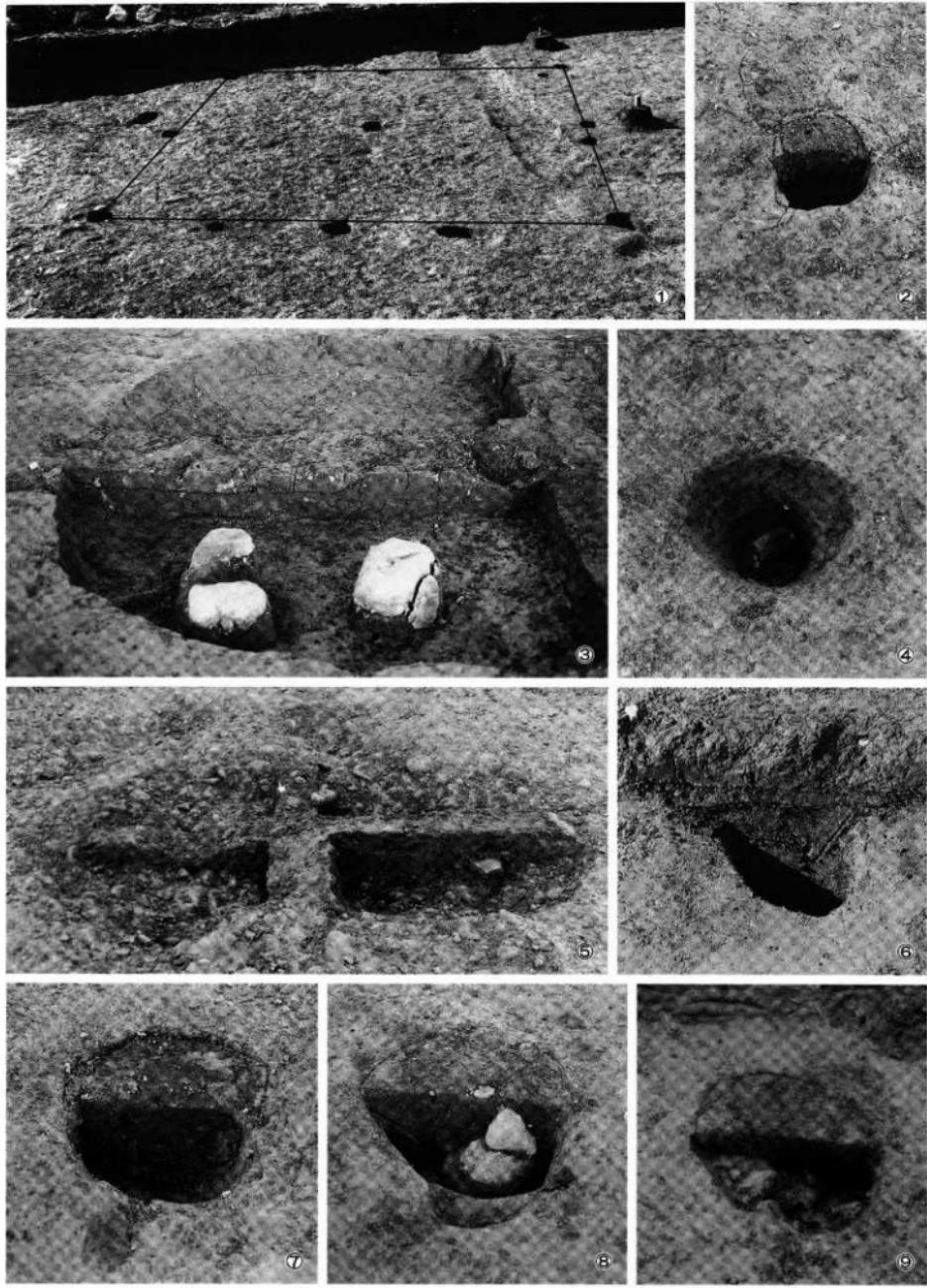
①神成遺跡4地区全景(真上から)

②久戸Ⅱ遺跡3地区全景(真上から)



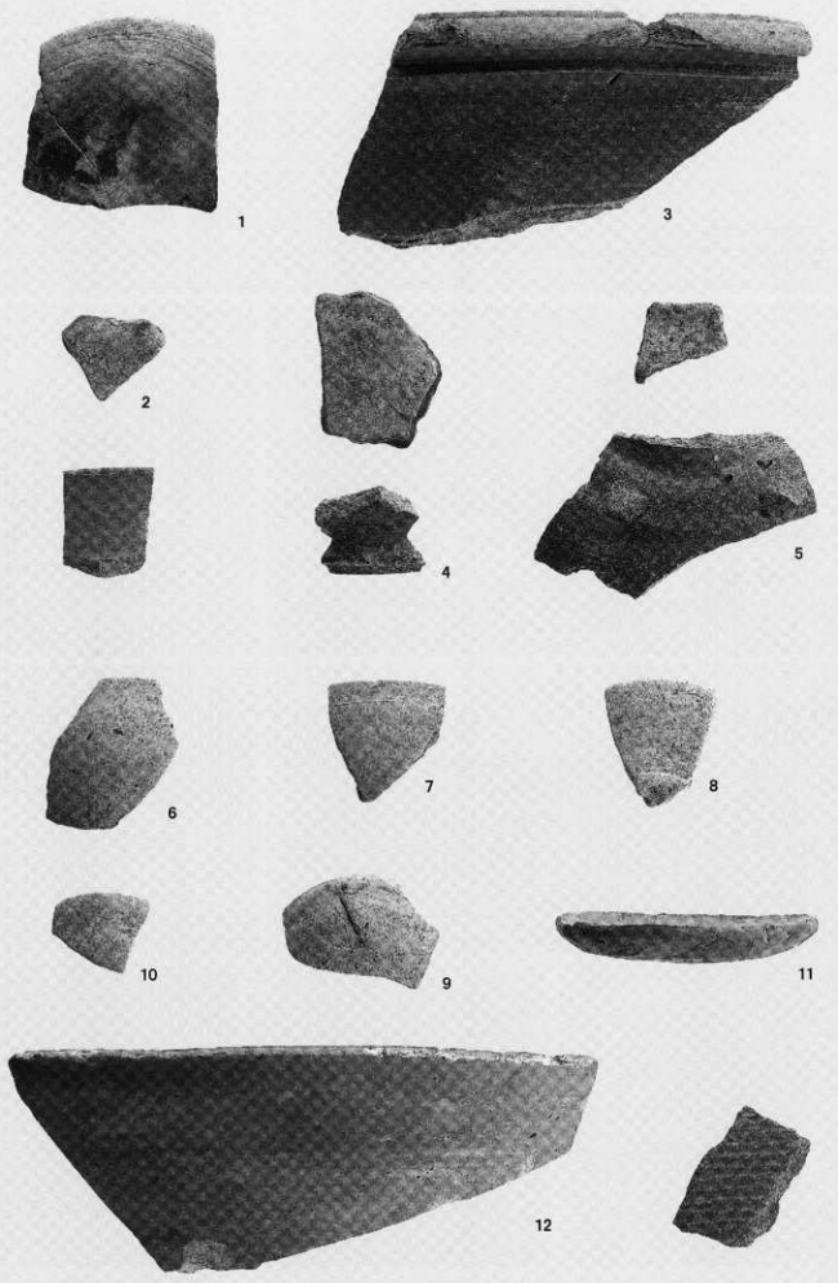
図版3 神成遺跡4地区の遺構

- | | | | |
|------------|------------|------------|-------|
| ①SB01(南から) | ②SB02(北から) | ③SB03(東から) | ④SD04 |
| ⑤SB03-P4 | ⑥SB02-P2 | ⑦SB03-P1 | |

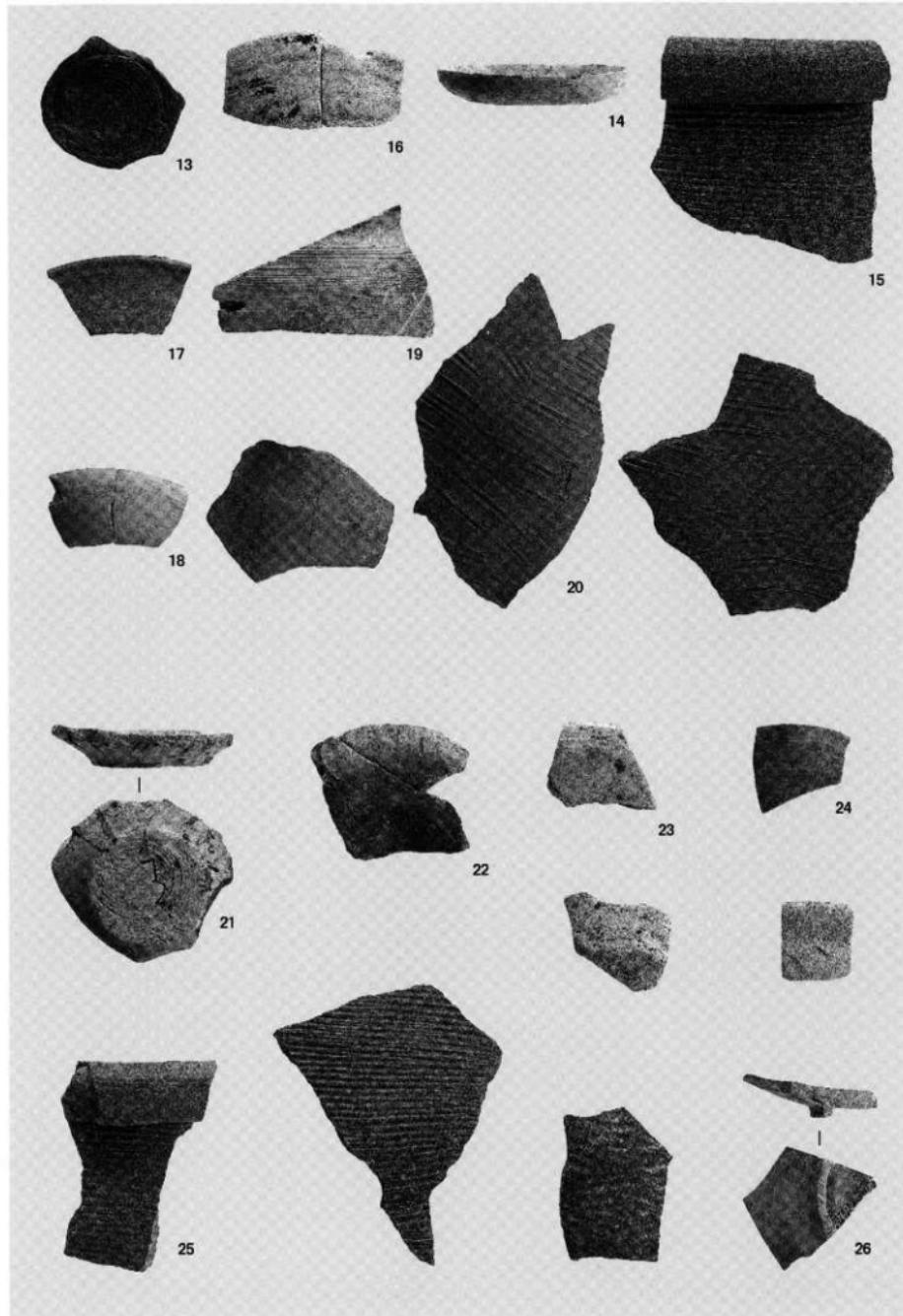


図版4 神成遺跡4地区(①～④)・久戸Ⅱ遺跡3地区(⑤～⑨)の遺構

①SB04(東から) ②SB04-P5 ③SK01土層(南から) ④SB03-P2遺物出土状況
 ⑤SK01土層(南から) ⑥P30 ⑦P6 ⑧P7 ⑨P139



図版5 神成遺跡4地区の遺物 (S=1:2)



図版6 久戸II遺跡3地区の遺物 (S=1:2)

報告書抄録

ふりがな	とやまけんふくみつまちかんなりいせきいち・ひさといせきいち						
書名	富山県福光町 神成遺跡 I・久戸 II 遺跡 I						
副書名	一般県道福野城端線道路改良工事に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告（1）						
編著者名	片田亜紀・西村倫子						
編集機関	福光町教育委員会						
所在地	〒939-1692 富山県西砺波郡福光町荒木1550 TEL (0763) 52-1111						
発行年月日	西暦2004年3月17日						

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
神成遺跡	富山県 福光町神成	16421	421275	36度33分 32秒	136度54分 38秒	030924 ～031215	600	一般県道 改良工事
久戸II遺跡	富山県 福光町久戸	16421	421276	36度33分 34秒	136度54分 39秒	031022 ～031215	840	一般県道 改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な造構	主な遺物	特記事項
神成遺跡	集落	縄文時代 古代 中世	土坑 掘立柱建物、溝、柱穴 掘立柱建物、柱穴	縄文土器 須恵器、土師器 中世土師器、珠洲	
久戸II遺跡	集落	古代 中世	柱穴、土坑	須恵器、土師器 中世土師器、珠洲、近世陶磁	

一般県道福野城端線道路改良工事に伴う
埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告（1）

富山県福光町 神成遺跡 I・久戸 II 遺跡 I

平成16年3月

編集 福光町教育委員会

発行 福光町教育委員会

印刷 (株)ナカダ印刷

